

介護施設との連携：現状と課題

医療法人明倫会 宮地病院
宮地千尋



今日の内容

- ◆ 明倫ヘルスケアグループの紹介
- ◆ 神戸市医療圏の状況
- ◆ 神戸市東部の病院と介護施設へのアンケート調査
- ◆ 当グループの現況
- ◆ 介護施設との連携における在宅療養支援病院としての役割
- ◆ まとめ

グループの概要



宮地病院の概要

病床数 88床
一般病棟 36床
地域包括ケア病床8床
医療療養病棟 44床

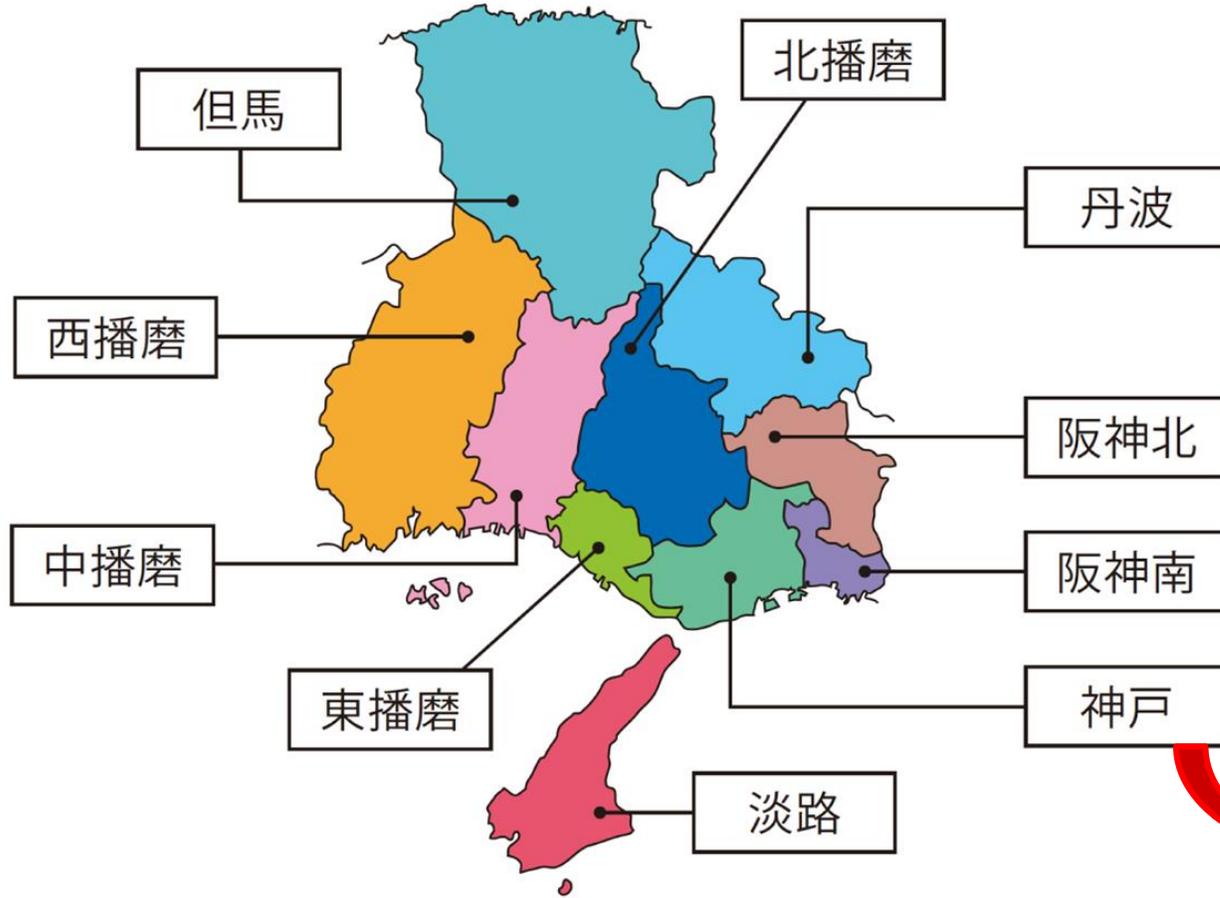
認知症疾患医療センター
重度認知症デイケア
短時間通所リハビリ
保育所

診療科
内科
消化器科
循環器科
呼吸器内科
整形外科
外科
精神科
放射線科
リハビリテーション科
リウマチ科

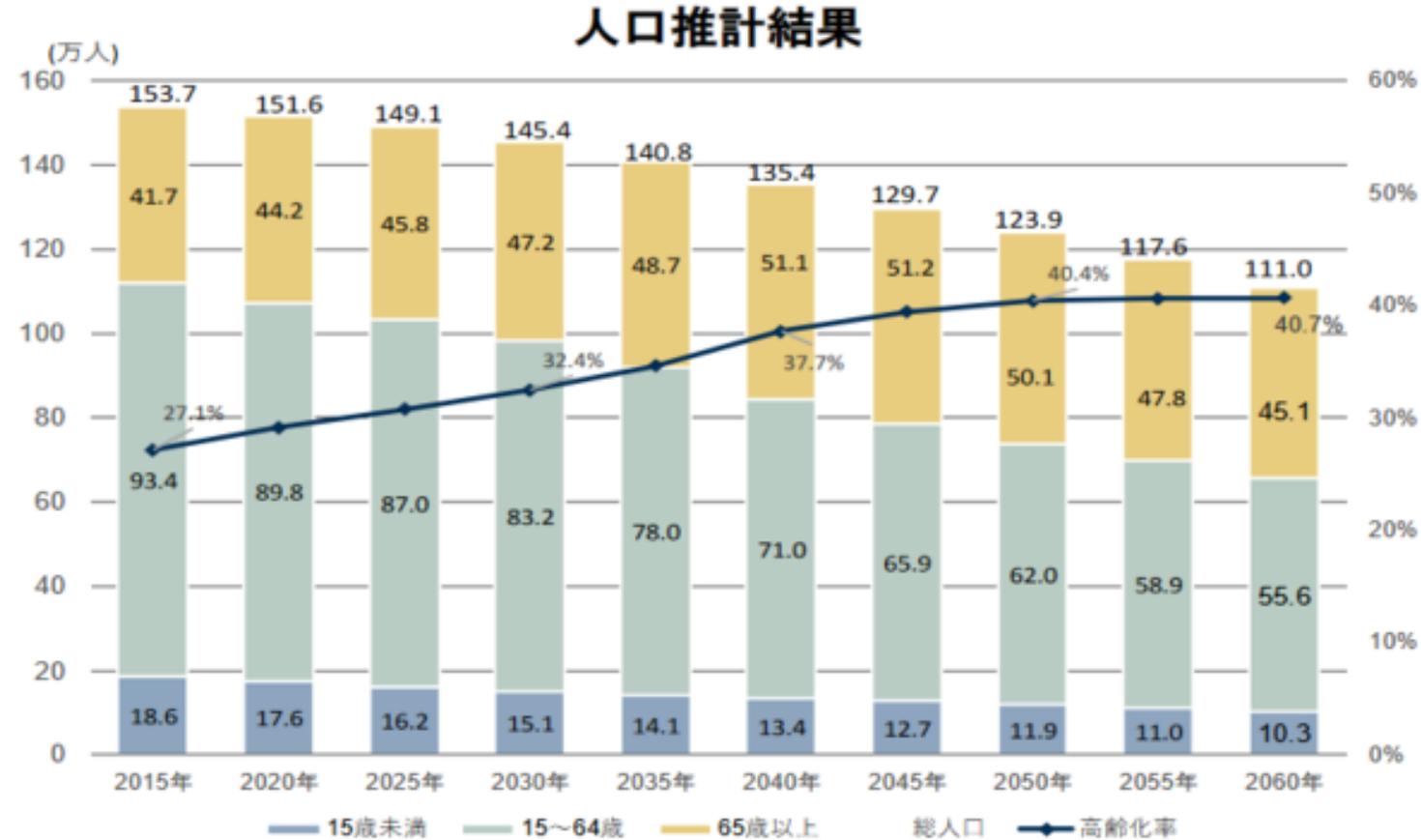
特殊外来
もの忘れ外来
禁煙外来
糖尿病外来
人間ドック、健診



神戸医療圏

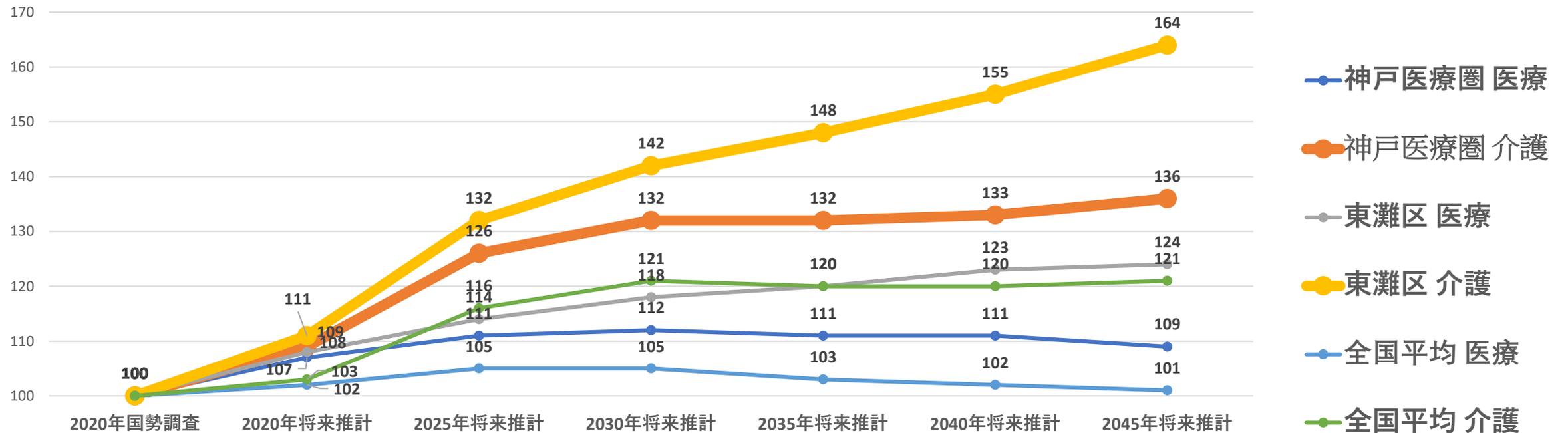


神戸市の人口推移



神戸医療圏、東灘区の医療介護需要予測

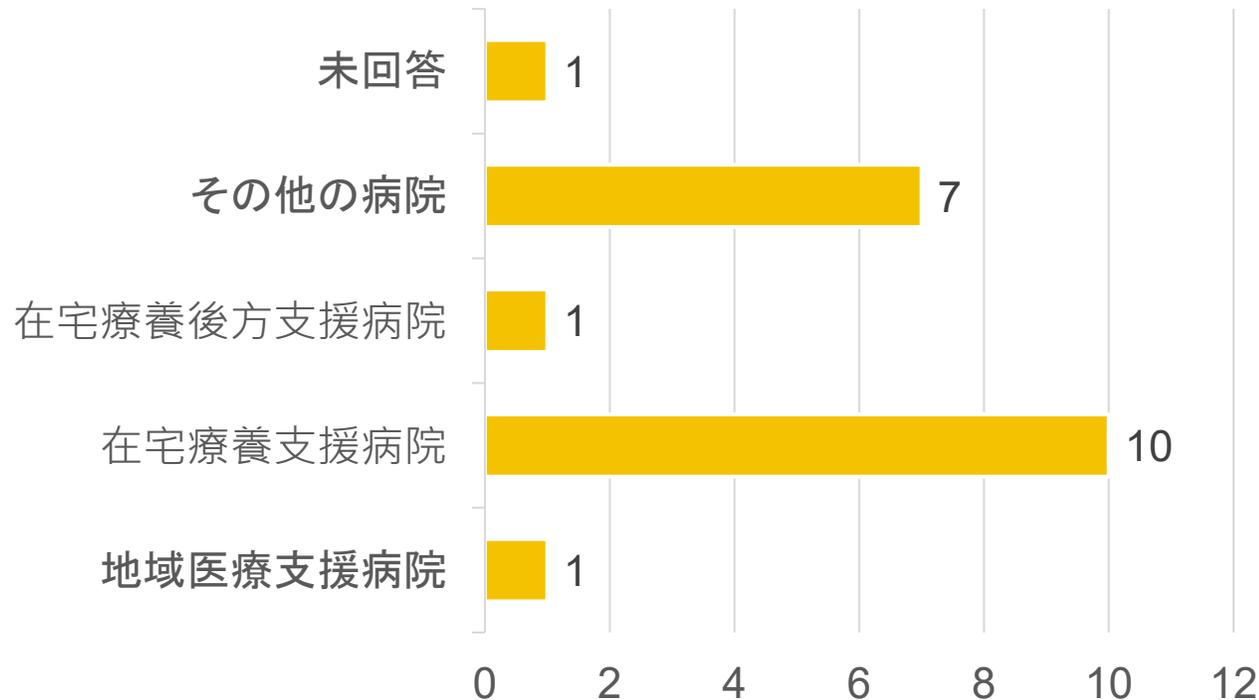
医療介護需要予測指数（神戸医療圏・東灘区・全国平均）



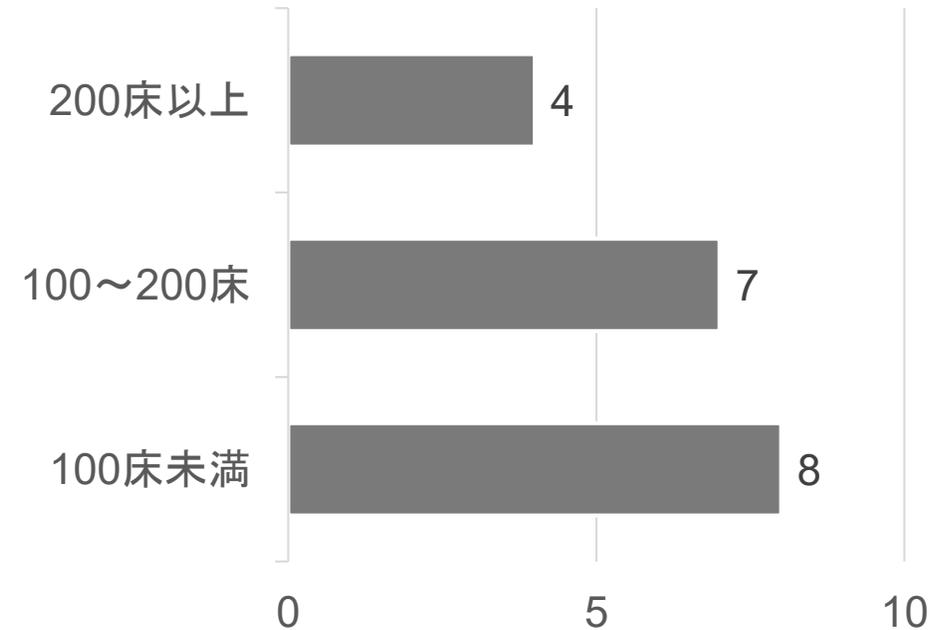
アンケート結果(医療機関向け) 1

設問1 病院の種別と病床数をお答えください。

病院の種別

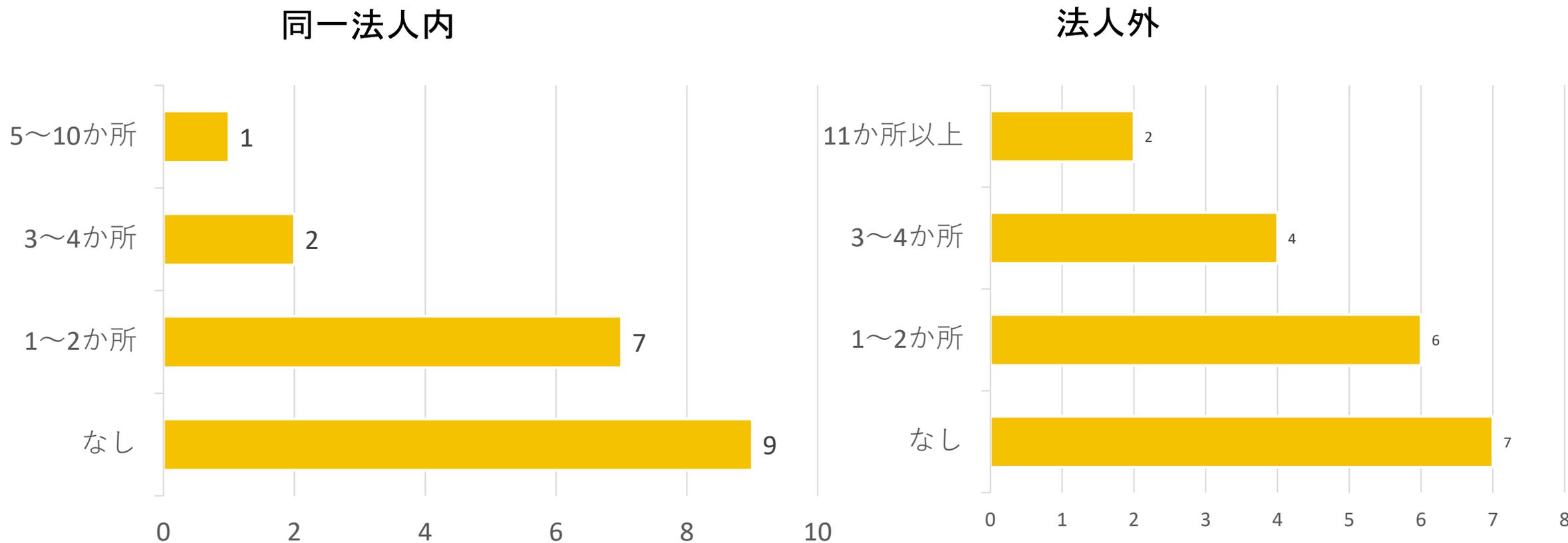


病床数



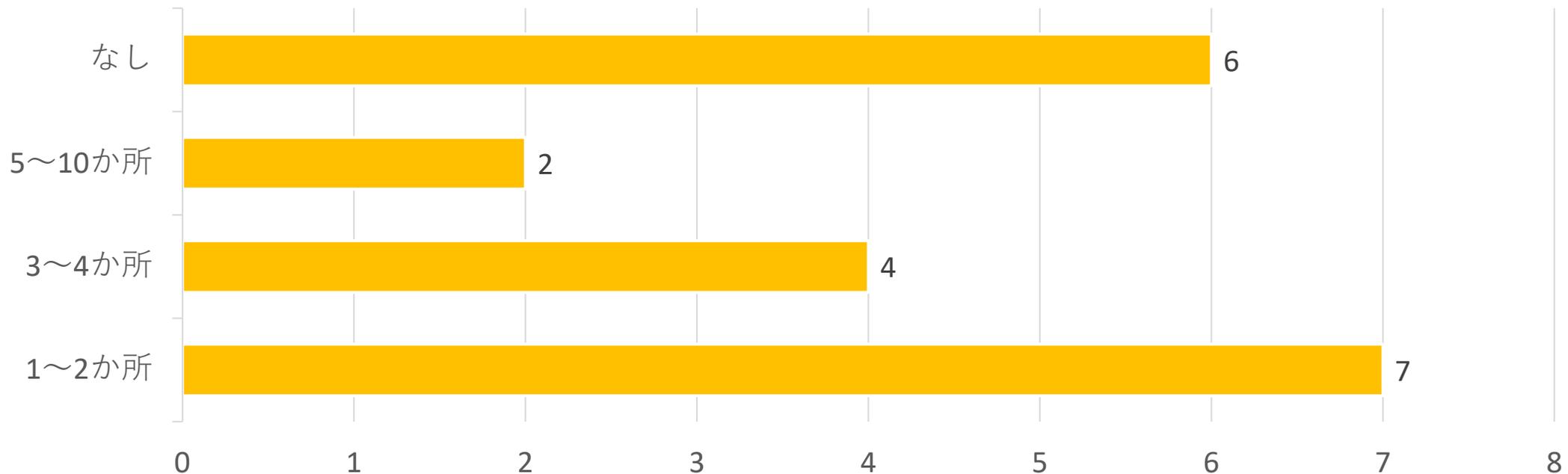
アンケート結果(医療機関向け)2

設問2. 現在協力医療機関として契約を締結している介護施設の数はいくつですか？



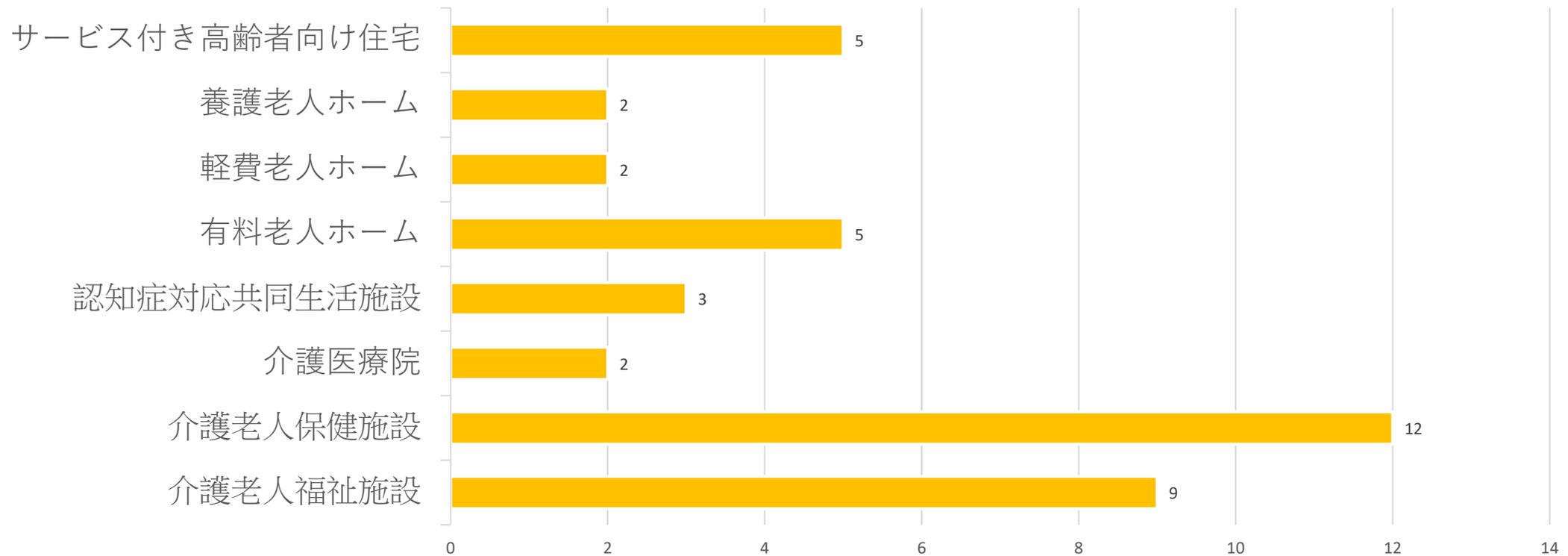
アンケート結果(医療機関向け)3

設問3. 契約はしていないが協力医療機関となっている介護施設の数はいくつですか？



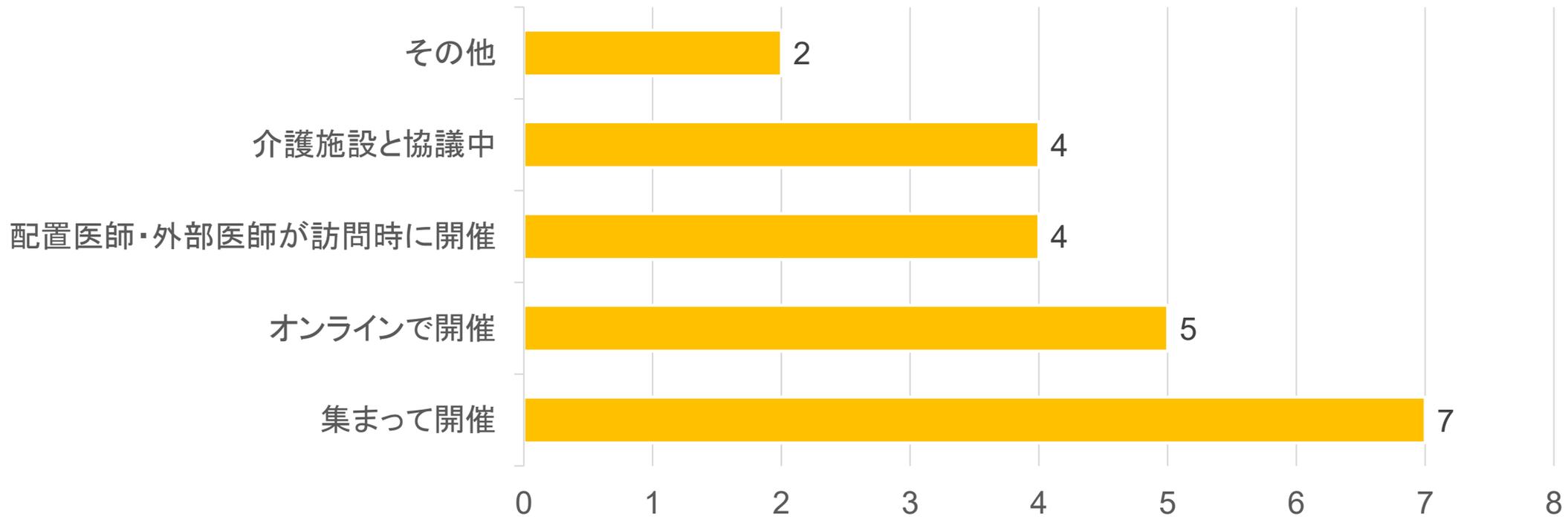
アンケート結果(医療機関向け)4

設問4. 協力機関となっている介護施設の種別は？(複数回答可)



アンケート結果(医療機関向け)5

説紋5. 介護施設と契約を締結している場合、定期的な会議はどのようにしているか(複数回答可)



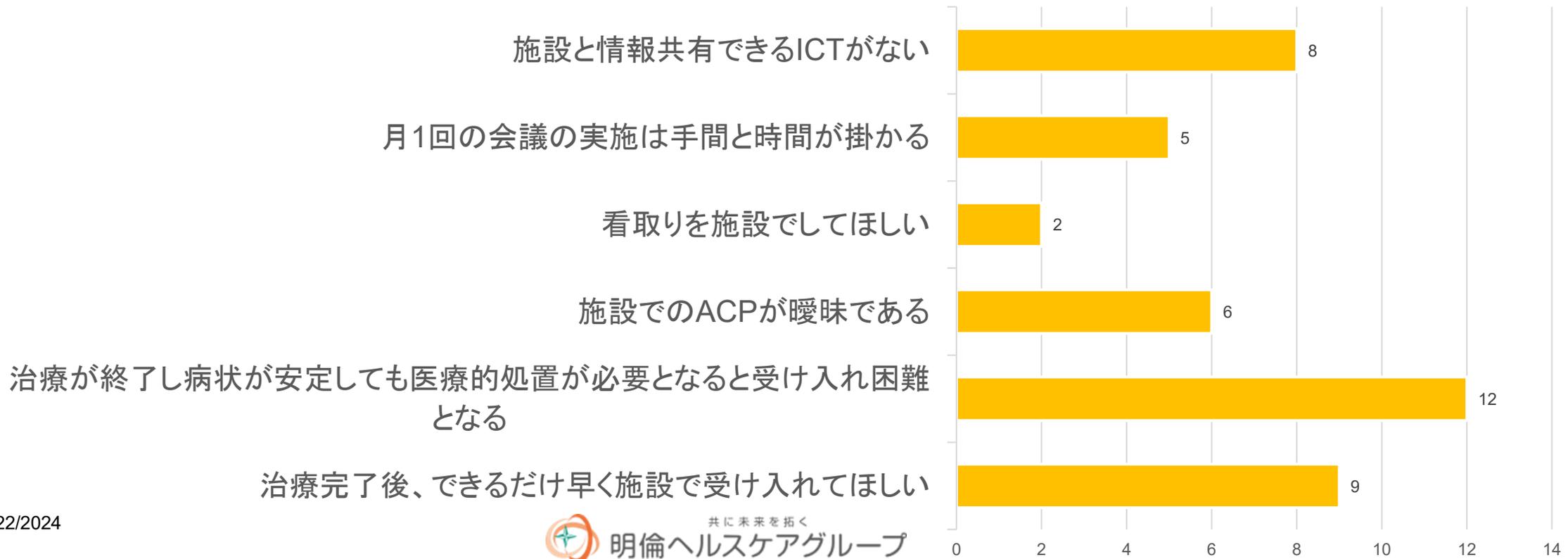
アンケート結果(医療機関向け)6

入所者の病状急変時における連携の内容は？(複数回答可)



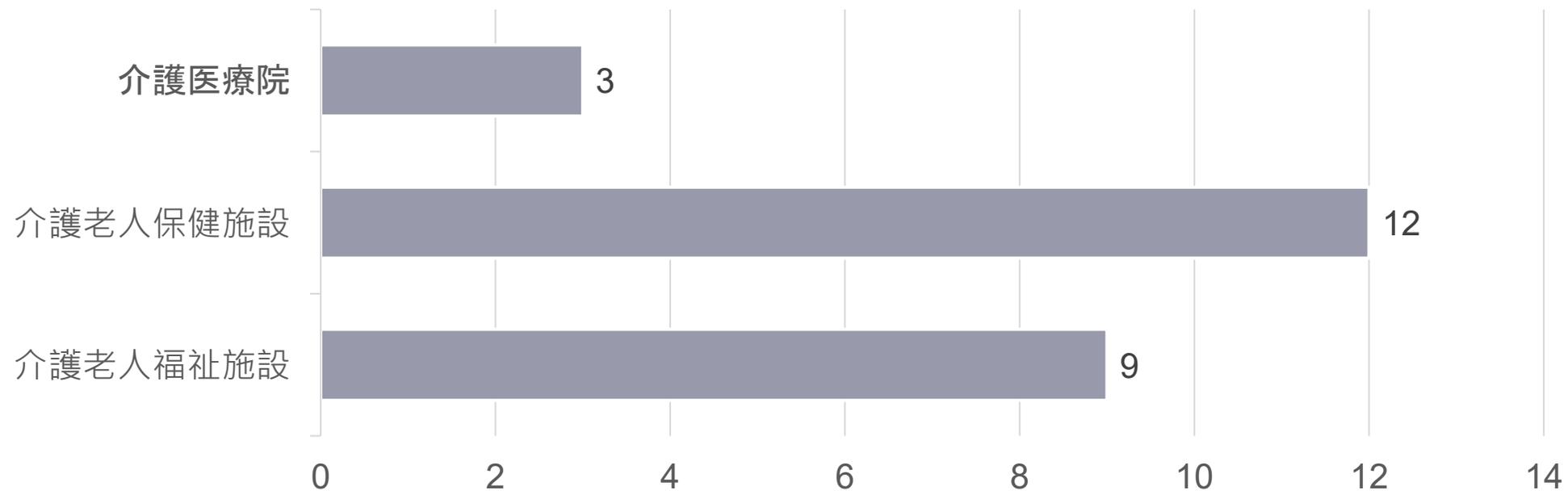
アンケート結果(医療機関向け)7

設問7. 介護施設との連携における課題は？(複数回答可)



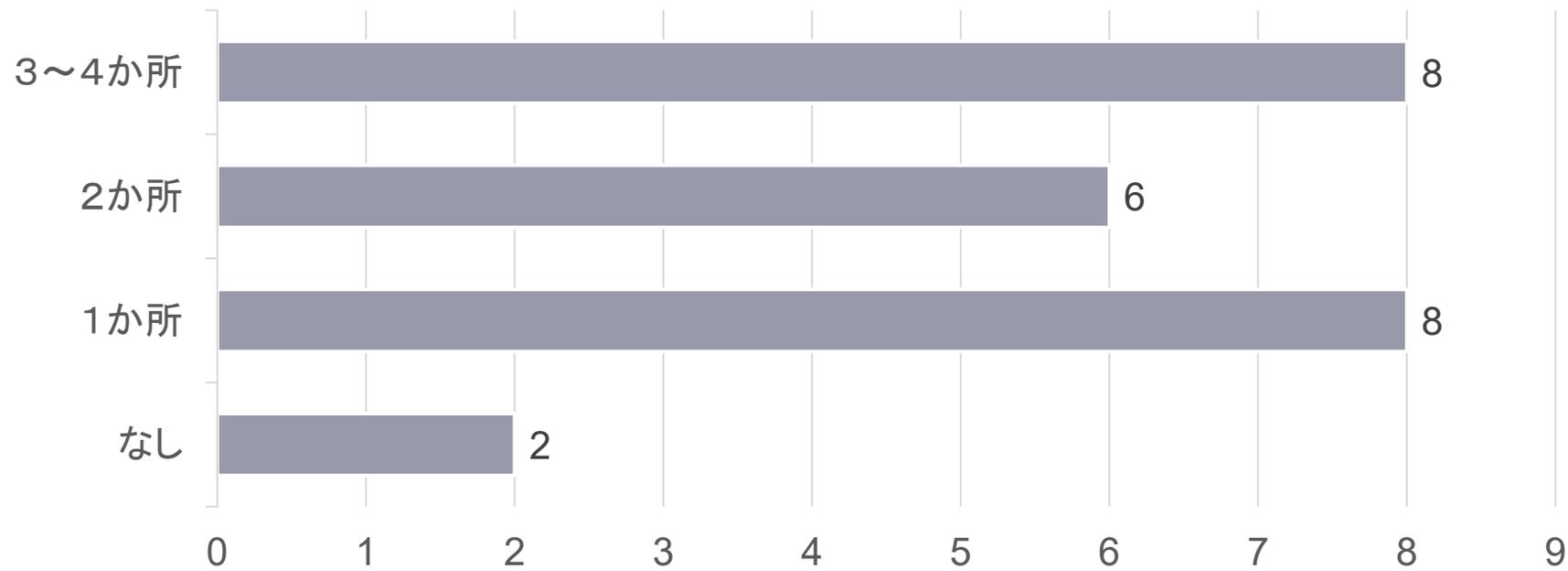
アンケート結果(介護施設向け) 1

設問1. 介護施設の種別は？



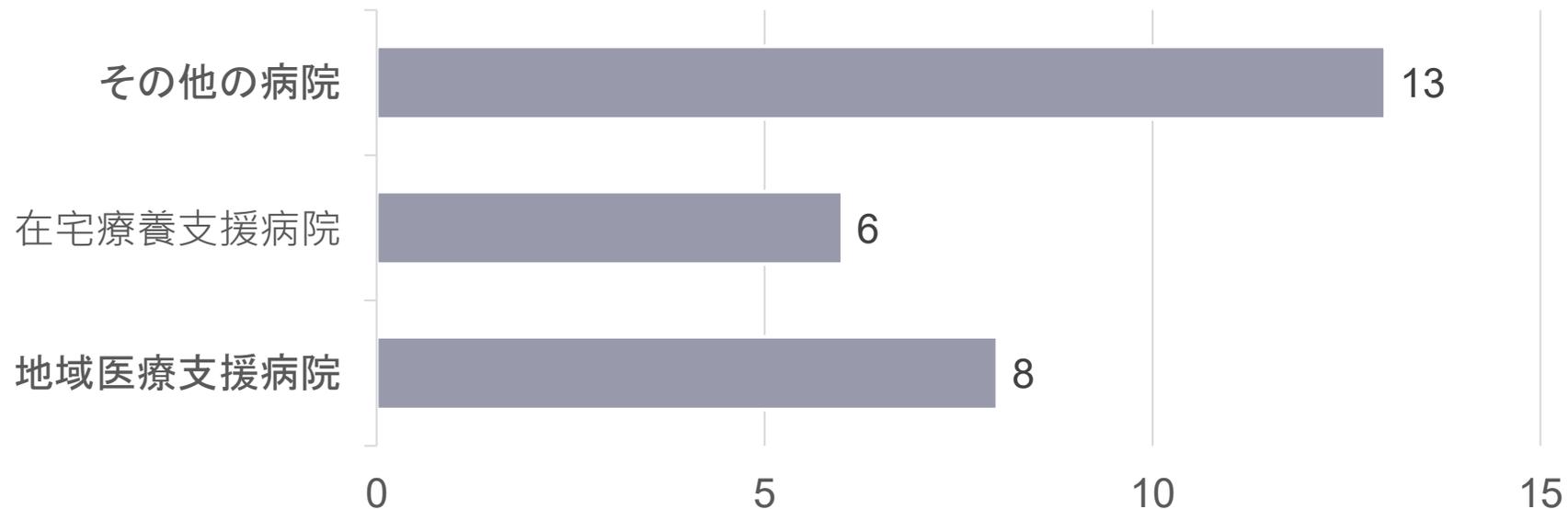
アンケート結果(介護施設向け)2

設問2. 協力医療機関として契約を締結している医療機関の数は？



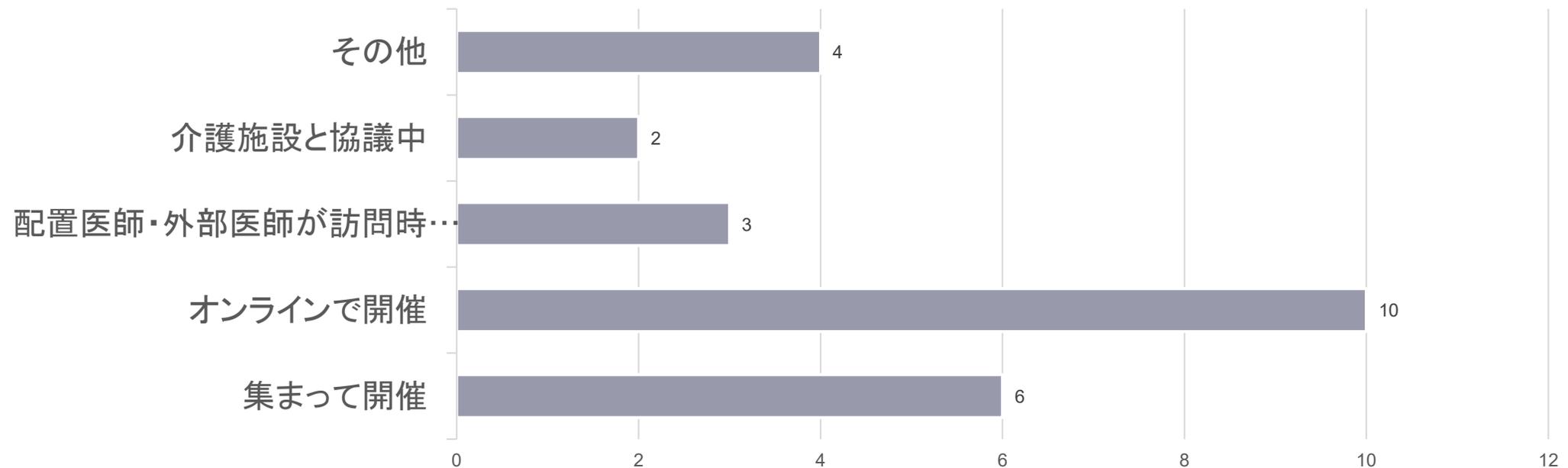
アンケート結果(介護施設向け)4

設問4.協力医療機関の種別は？(複数回答可)



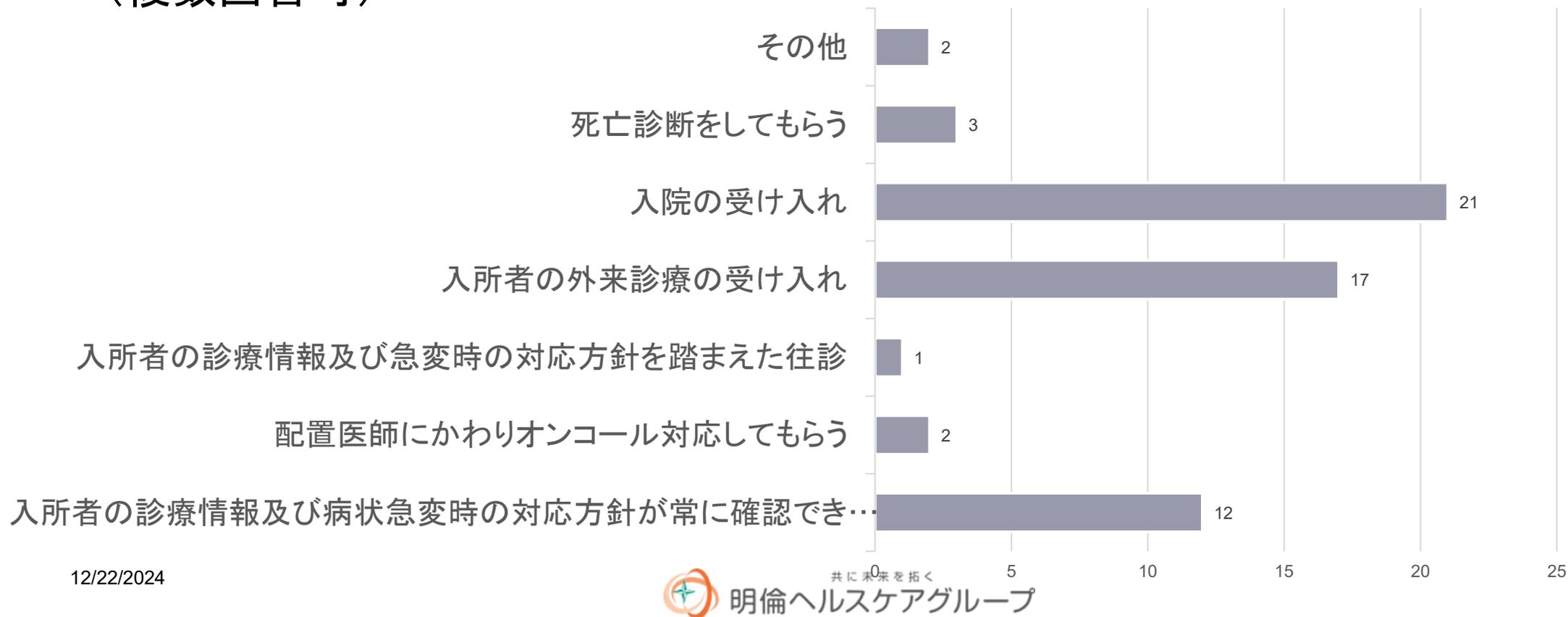
アンケート結果(介護施設向け)5

設問5. 契約を締結している医療機関との定期的な会議はどうしているか
(複数回答可)



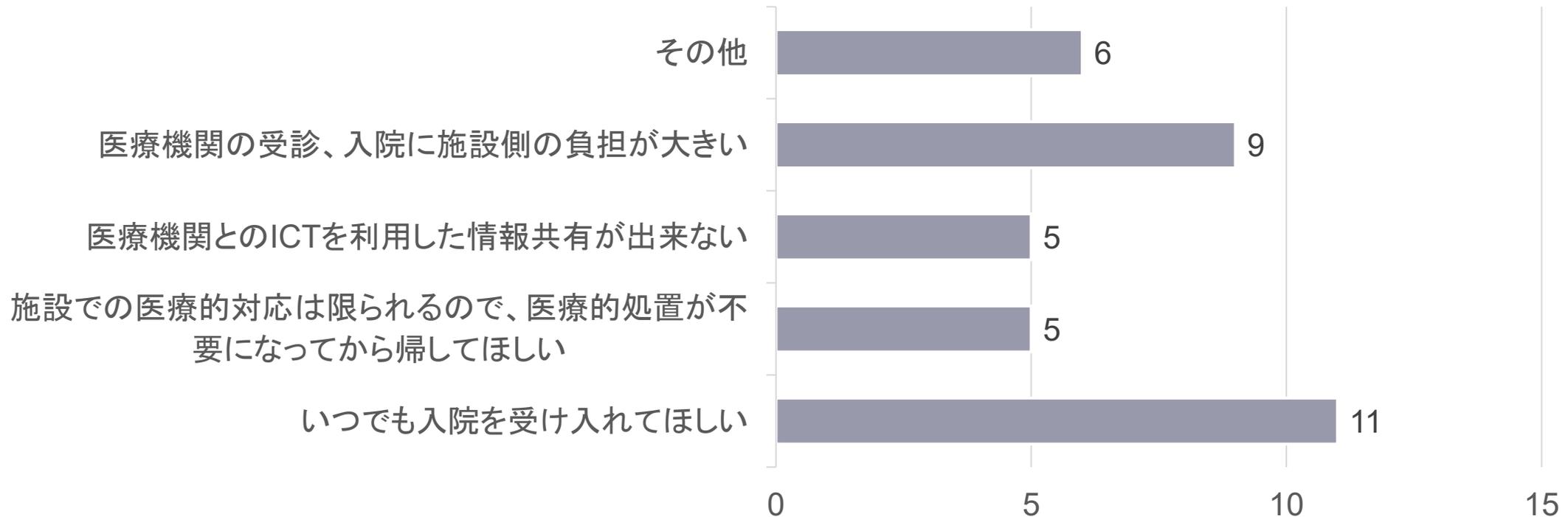
アンケート結果(介護施設向け)6

設問6. 入所者の病状急変時における連携医療機関との連携はどうしているか
(複数回答可)



アンケート結果(介護施設向け)7

設問7. 医療機関との連携における課題は何か？(複数回答可)



アンケートのまとめ

1. 病院は、同一法人内外を問わず、連携なしが最も多く、次に1~2施設との連携が多かった。

殆どの介護施設は病院と連携している。介護施設が契約を締結している病院は1~4病院が多かった。

2. 病院・施設とも、契約を締結している場合の連携は、オンラインと集まって開催が多かった。

3. 急変時の対応は、外来診療対応、入院受け入れが多く、往診・オンコールは少なかった。

医療・介護の求めるところ

医療から介護へ

治療が終了したらできるだけ早く施設で見てほしい

医療的処置があると施設の受け入れができず行き先に困る

会議は負担が大きく情報共有が不十分

ACPが十分できていない

看取りをもっとしてほしい

介護から医療へ

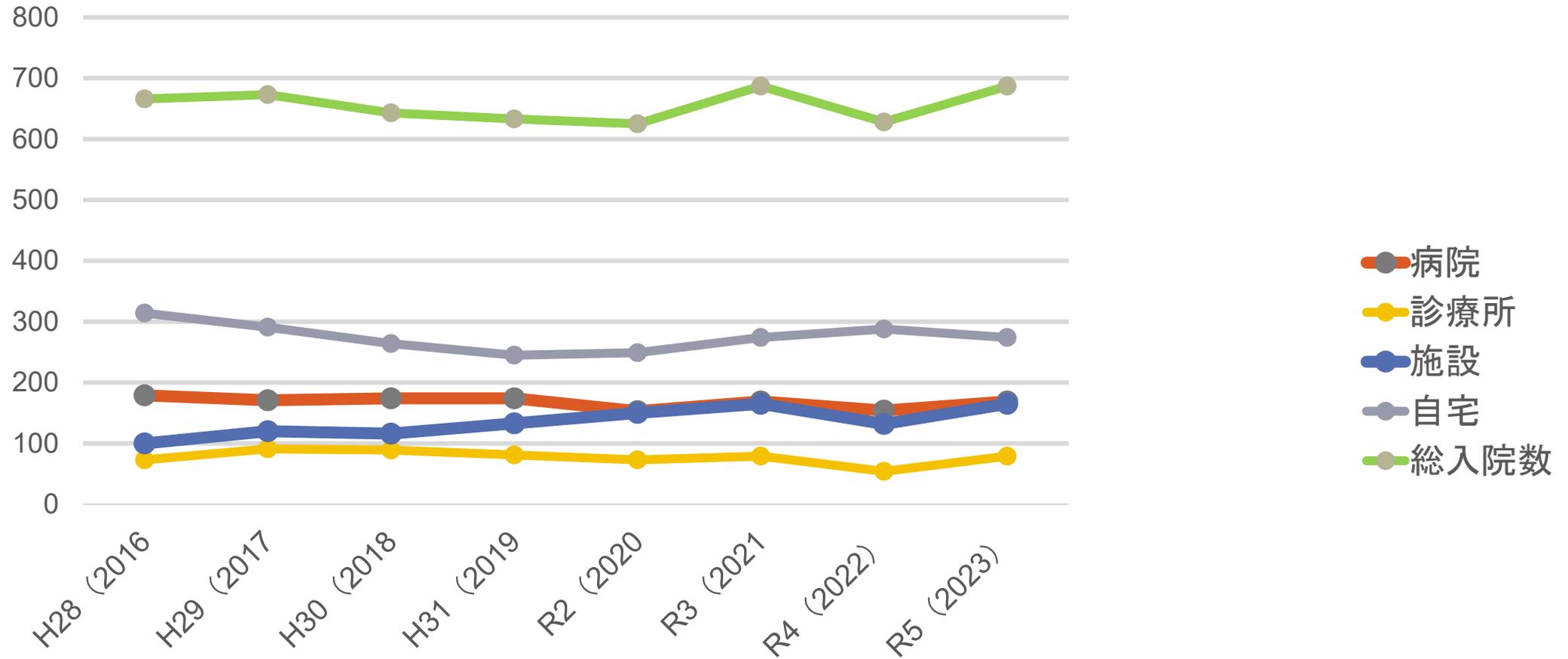
医療的処置は限界があるので安定するまで退院を待ってほしい

会議は負担が大きく情報共有が不十分

必要な時にいつでも入院させてほしい（協力医療機関でも断られることがある）

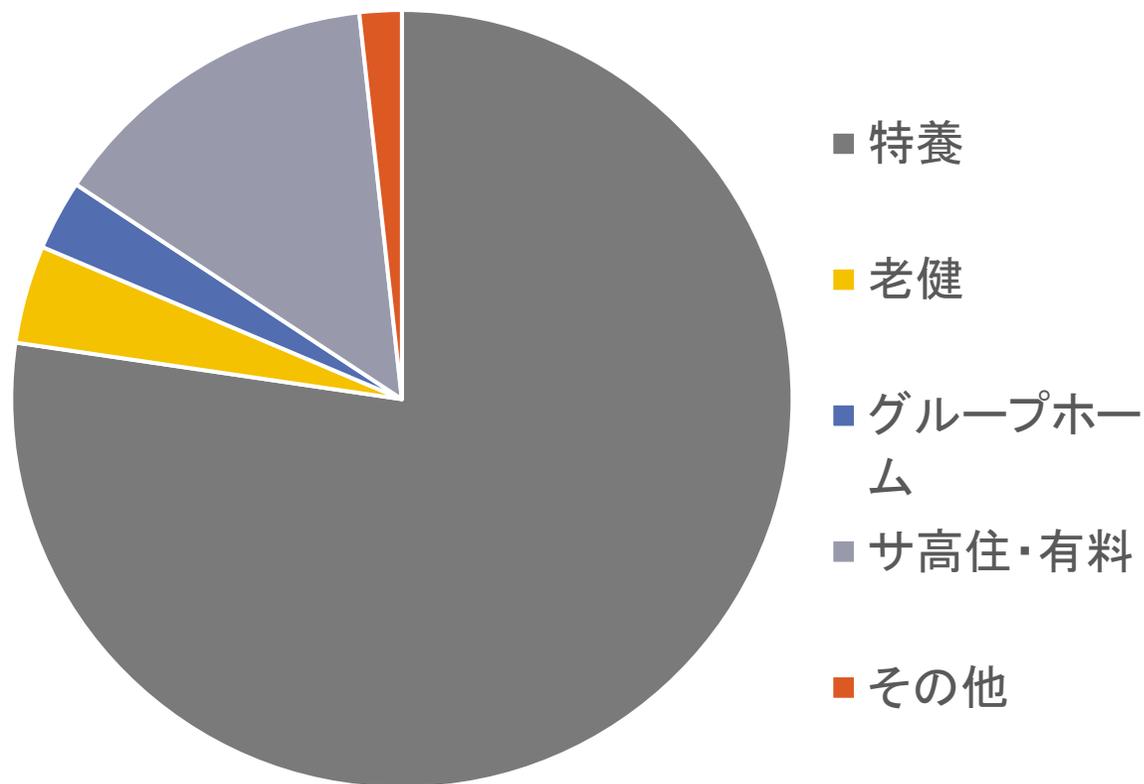
受診・入院時に施設側の負担が大きい

紹介元別入院患者数



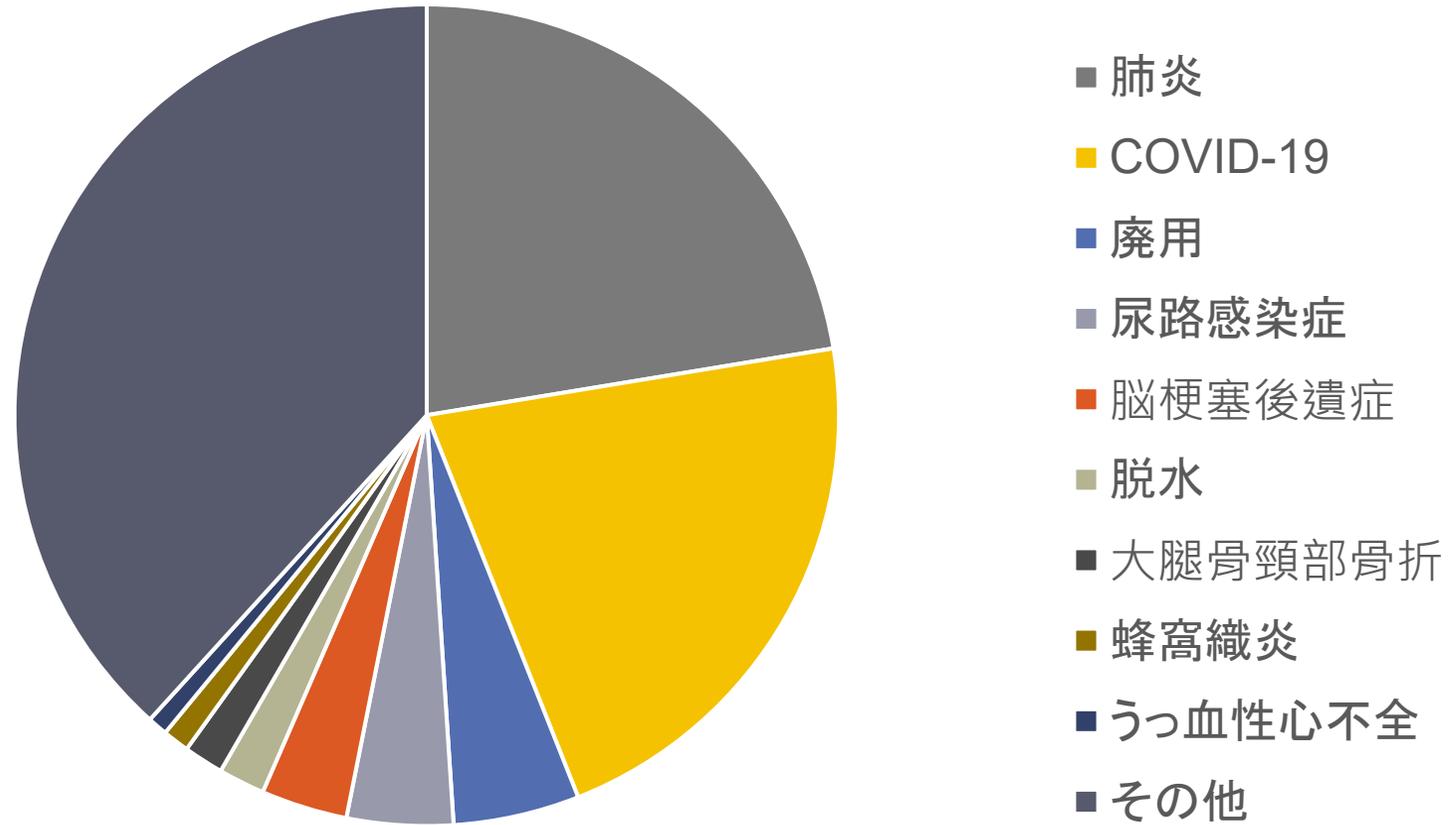
施設からの入院患者の内訳

施設別入院患者数



疾患別入院患者数

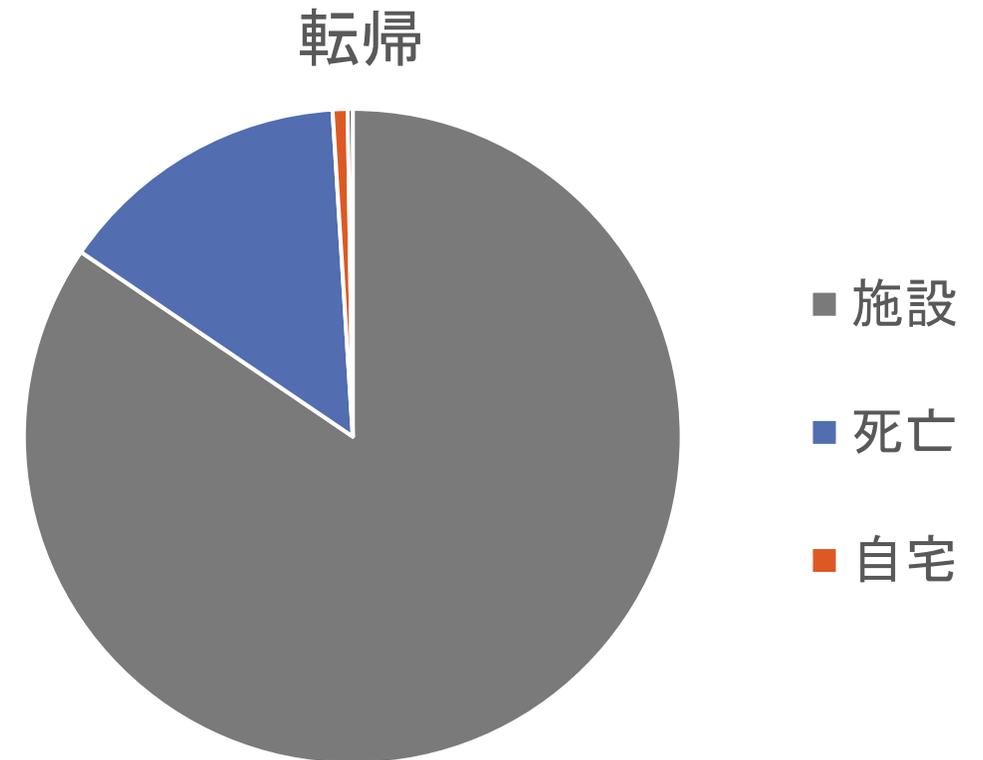
疾患別患者数



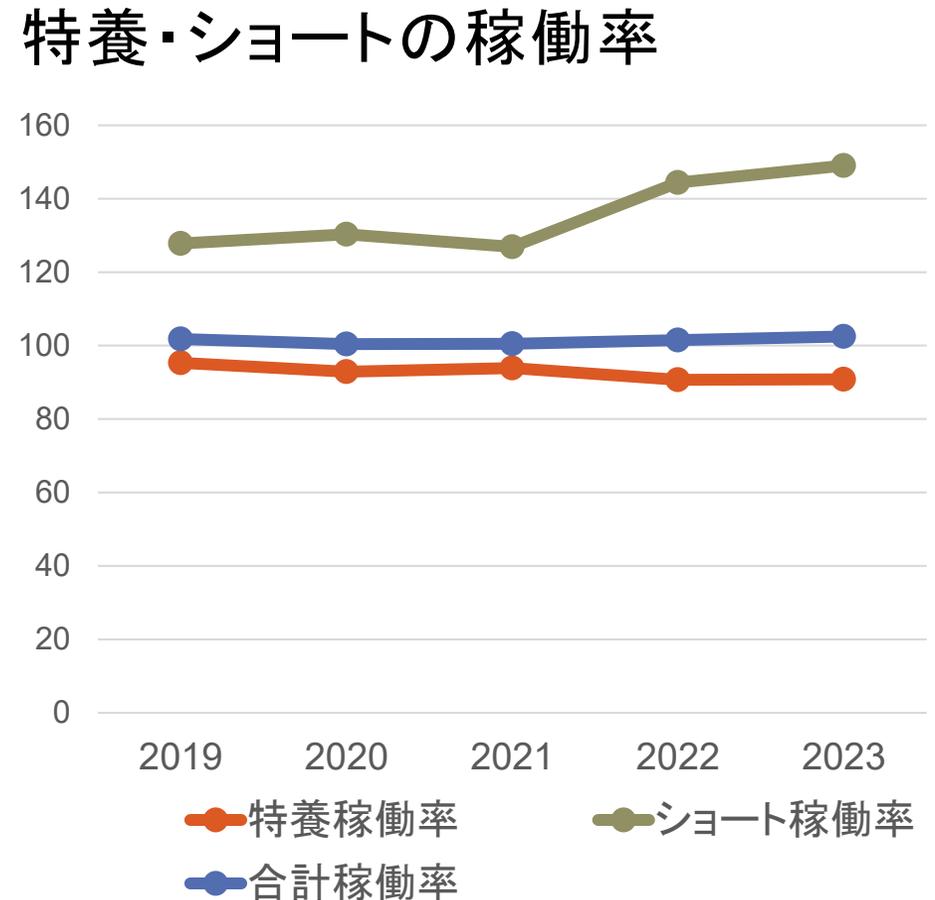
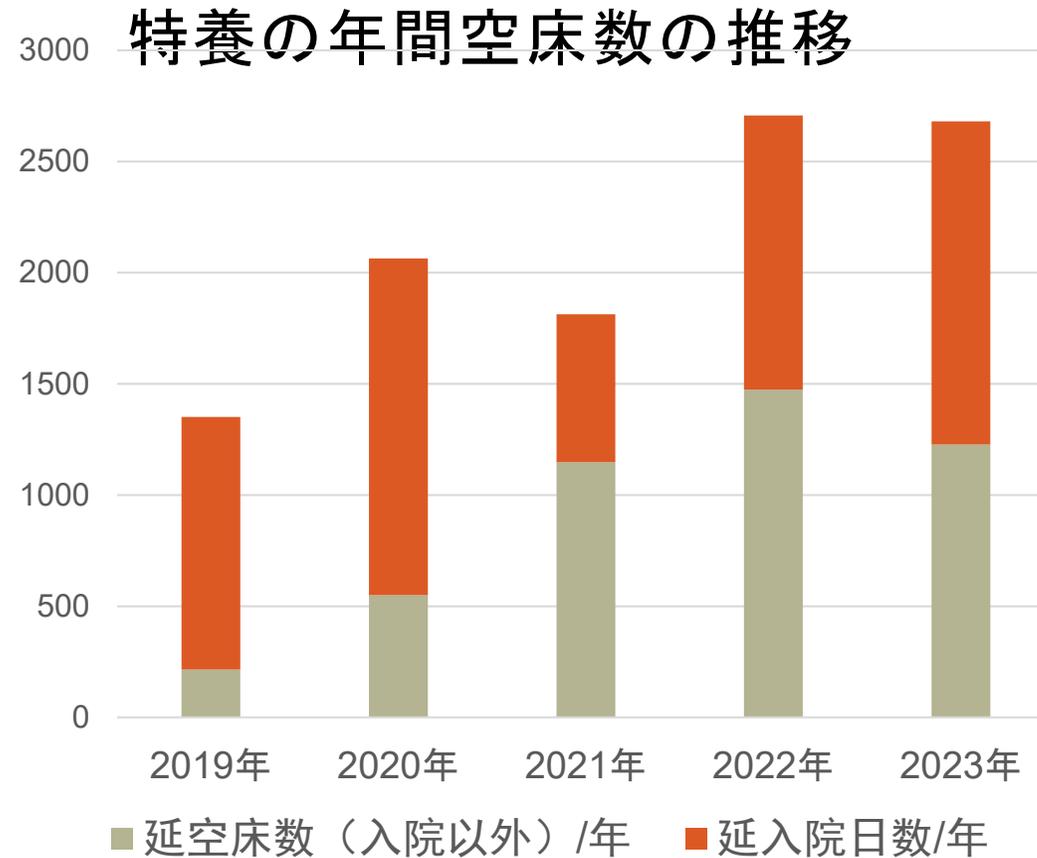
施設より入院した患者の 平均年齢、平均在院日数と転帰

| | 平均年齢 |
|-------|------|
| 2022年 | 89.2 |
| 2023年 | 90.1 |

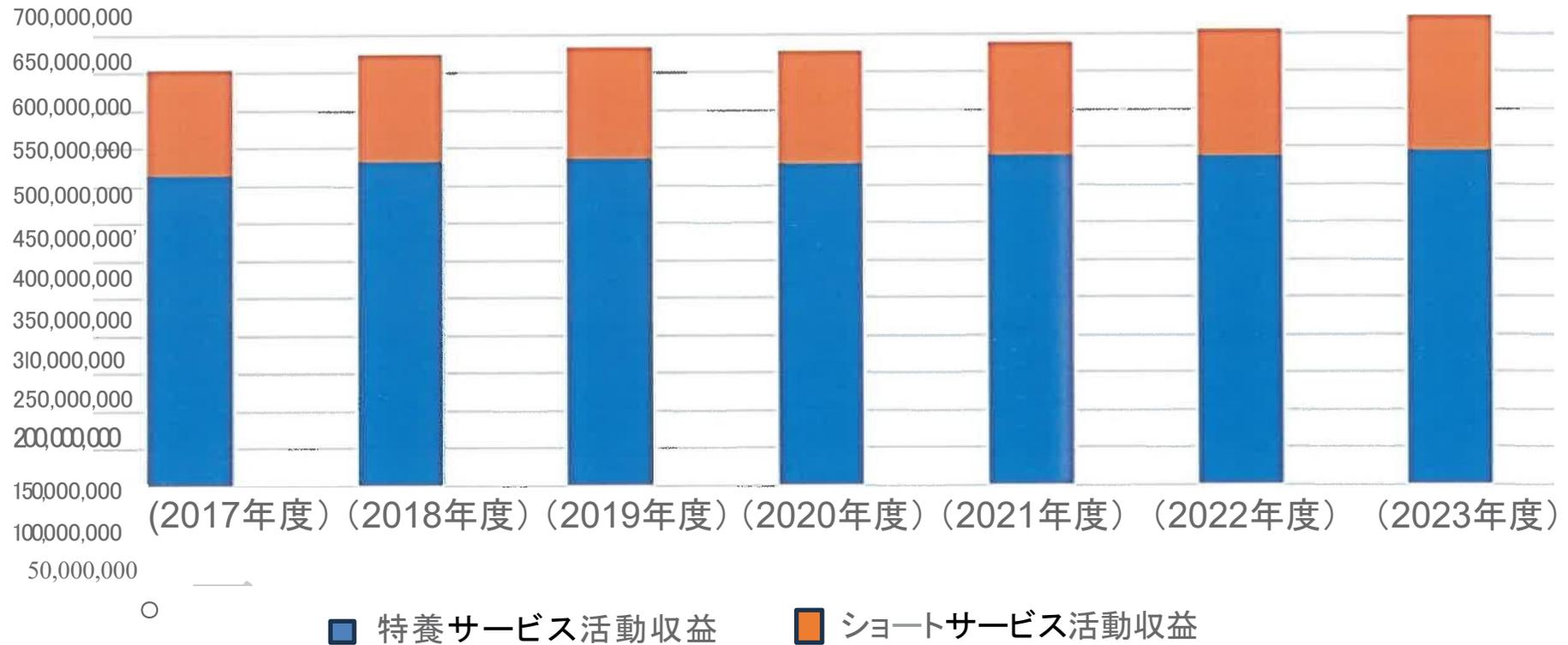
| | 平均在院日数 |
|-------|--------|
| 2022年 | 56.3 |
| 2023年 | 36.6 |



特養愛しやの空床と稼働率



特養愛しやの収益の推移



医療と介護のギャップ

医療から介護へ

介護から医療へ

治療が終了したらできるだけ早く施設で見てほしい

医療的処置があると施設の受け入れができず行き先に困る

医療的処置は限界があるので安定するまで退院を待ってほしい

解決策①介護施設で医療的処置の必要な利用者を見る

施設別人員配置

| 施設の種類 | 配置医師 | 看護 | 夜間の人員配置 |
|-------------|---------|----------|----------------|
| 特養 | 必要数 | 入所者数に応じて | 介護のみ |
| 有料老人ホーム(住宅) | 配置義務なし | 入所者数に応じて | 介護のみ |
| 有料老人ホーム(介護) | 配置義務なし | 配置無し | 介護のみ。看護師ありの場合も |
| 老健 | 1人/100床 | 入所者数に応じて | 看護・介護 |
| 介護医療院 | 必要数 | 入所者数に応じて | 看護介護 |
| グループホーム | 配置義務なし | 配置無し | 配置無し |
| サ高住 | 配置義務なし | 配置無し | 配置無し |

対策

- ①喀痰吸引、経管栄養の特定行為の研修を受けた介護福祉士を増やす。病院は実習先となり指導する。
- ②夜間看護師のいない施設で訪問看護を積極的に利用できる制度を創る

解決策②在宅療養支援病院としての役割を果たす

1. 長期入院となる施設からの入院患者によりそい、状態に合った病棟で治療・ケアを継続できるように連携する。
2. 最期をどこで過ごすかの選択を支援できる。周死期のマネジメント

在宅療養支援病院と施設のWIN-WINの関係

病院

- ◆必要な入院を可能な限り受け入れる
- ◆利用者の行き先を提案する
- ◆施設に対する研修の支援をする
- ◆訪問診療、訪問看護で医療面を支援する

施設

- ♡医療依存度の高い利用者も看る
- ♡看取りを積極的に行う

- ◆♡ICTを利用して情報共有を進める
- ◆♡周死期のマネージメントを行う

結語

1. 医療機関と介護施設の連携の契約締結は進んでいない。連携のための会議が負担になっている。
2. 急変時の対応は外来診療、入院受け入れで対処している。
3. 医療側と介護側の課題に感じていることにギャップがある。
4. 病院は施設からの入院を可能な限り受け入れる。長期入院となる場合は他院とも連携してケアが継続できるように支援する。
5. 病院・介護施設共に協力して特定行為の研修を行い医療依存度の高い利用者も看れるようにする。
6. 病院・介護施設で協力して周死期のマネジメントを進める。